

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 1 区分

【発行日】平成25年10月10日 (2013.10.10)

【公表番号】特表2011-518758(P2011-518758A)

【公表日】平成23年6月30日 (2011.6.30)

【年通号数】公開・登録公報2011-026

【出願番号】特願2011-507425(P2011-507425)

【国際特許分類】

C 0 3 C 3/32 (2006.01)

C 0 3 C 4/10 (2006.01)

G 0 2 B 1/00 (2006.01)

【F I】

C 0 3 C 3/32

C 0 3 C 4/10

G 0 2 B 1/00

【誤訳訂正書】

【提出日】平成25年8月20日 (2013.8.20)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ガラス組成物であって、原子百分率で：

60～70 %の S、または S と S e の組合せ、または S と T e の組合せ、または S、S e および T e の組合せ；

6～20 %の G a、または G a と I n の組合せ；

15～20 %の P；

0～40 %の A s；

0～15 %の G e；

0～10 %の S b；および

0～5 %の M；

を含み、

S の割合が S e、T e、または S e と T e の組合せの割合以上であり、

I n の割合が 20 %以下であり、

M が、S n、T l、P b、B i およびそれらの組合せであり、

各割合が、ガラス組成物中の S、S e、T e、G a、I n、P、A s、G e、S b、および M の原子の合計に基づいている、
ガラス組成物。

【請求項 2】

G a₂S₃－P₂S₅ の 2 成分系を含み、

1 つ以上の S 原子が S e または T e で置換されて差し支えなく；

1 つ以上の G a 原子が I n で置換されて差し支えなく；

S、S e、および T e の原子の合計が化学量論値の 70 %～130 %であることを特徴とする請求項 1 記載のガラス組成物。

【請求項 3】

G e S₂－G a₂S₃－P₂S₅ の 3 成分系を含み、ここで、

1つ以上のS原子がS eまたはT eで置換されて差し支えなく；

1つ以上のG a原子がI nで置換されて差し支えなく；

S、S e、およびT eの原子の合計が化学量論値の70%～130%である
ことを特徴とする請求項1記載のガラス組成物。

【請求項4】

$As_2S_3-Ga_2S_3-P_2S_5$ の3成分系を含み、ここで、

1つ以上のS原子がS eまたはT eで置換されて差し支えなく；

1つ以上のG a原子がI nで置換されて差し支えなく；

S、S e、およびT eの原子の合計が化学量論値の70%～130%である
ことを特徴とする請求項1記載のガラス組成物。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0008

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0008】

希土類ドーパントがほとんどの酸化物ガラスには非常に溶解性であることが知られており、硫化ヒ素ガラスにおける希土類ドーパントの明らかな不溶性は硫化ヒ素ガラスと酸化物ガラスの間に存在する全体の構造的相違に起因するものと推測されている。硫化ヒ素ガラスは、長鎖および、共有結合したピラミッド型の AsS_3 基の層からなると考えられるのに対し、酸化物ガラスは、典型的には、比較的イオン結合した MO_4 四面体の三次元ネットワークを含み、ここで、Mは、シリコン、リン、アルミニウムなどのいわゆるネットワーク形成金属である。希土類ドーパントは、例えば、アルミノケイ酸塩ガラス中のアルミニウムとケイ素などの2つ以上のネットワーク形成金属の存在から生じる電荷不均衡を相殺することが可能なこれらのイオン・ネットワーク構造に容易に適合される。